

Peshawar-kai

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局
〒810-0023 福岡市中央区警固
2-1-17 ハイツみかげ803号
TEL 092 (731) 2372
FAX 092 (731) 2373

No.125

2015年9月30日

〈URL〉 <http://www1a.biglobe.ne.jp/peshawar/>

〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



表紙絵 石賣りウマル/画・甲斐大策

「広域展開」の準備、着々と進む

中村 哲

石工としてあらゆる建設現場で15年

モハマッドカーヘル

日本人と共に20年間誠実に

ヌール モハマッド

井戸掘削から始まりガンバリ農場で働く

アルサラ カーン

●カラー特集 命を育む

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々への理解を深めていきたいと願っています。

「広域展開」の準備、着々と進む

— 復興モデルの完成と訓練所の開設

PMS（平和医療団・日本）総院長／ベシャワール会現地代表

中村 哲

皆さん、お元気でしょうか。今夏は異例の長さで日本に居て、二カ月間があつという間に過ぎてしまいました。しかし、講演会等を通じ、各地の支援者の方々と触れる機会に恵まれ、意を強くしました。

中には「『緑の大地計画』が終わり、中村も引き上げるのか」と誤解、落胆されていた方々も居たりして、驚きました。

また、平和の問題や中東全体の混乱で、アフガニスタンの現状が余り知られなくなったことにも、ずいぶん戸惑いました。

ここで私たちの計画の現状を伝え、先の長い話であることを再確認し、今後を理解する参考に供したいと思います。

二〇〇三年に始まった「緑の大地計画」

は現在、安定灌漑^{かんがい}地域の目標一六五〇〇畝のうち、約九割に迫っており、このまま努力を続けられれば、数年後に目標に達すると思

われます。多くの支援者の方々の心配は、その後どうするかと言うことです。

しかし実は、まだまだ問題が山積しています。十数年前に比べて気候変化の影響がさらに進み、治安の悪化が著しくなる中、今後に予定される「広域展開」の準備を着々と進めています。

具体的には、以下が大目標です。

① 今後数十年間を見据え、既に建設した取水堰^{せき}や水路の維持態勢を確立、復興モデルを完成すること

② 広域展開に備えて、人員（技師、現場監督、重機運転手、事務職、作業員ら）の訓練所を開設、他地域の調査を始めること

すなわち、「緑の大地計画」の途上で、同時に次の飛躍を準備することです。述べれば簡単ですが、これには多大の努力が必



建設中のミラーン取水口（2015年7月）

要になってきます。

「維持態勢」とは、単に技術面だけでなく、地域社会に密着した人間関係、行政との協力と適切な距離など、地域農民との絆を盤石にすると共に、この仕事に従事するPMSの安定があります。膨大かつ複雑となった事務量をこなすことも不可欠で、日本側事務局との密な協力が求められています。

「広域展開」に備える訓練所は現場に置き、予定地での実戦部隊を育成するものです。現地に即した技術を、紙上でなく、実



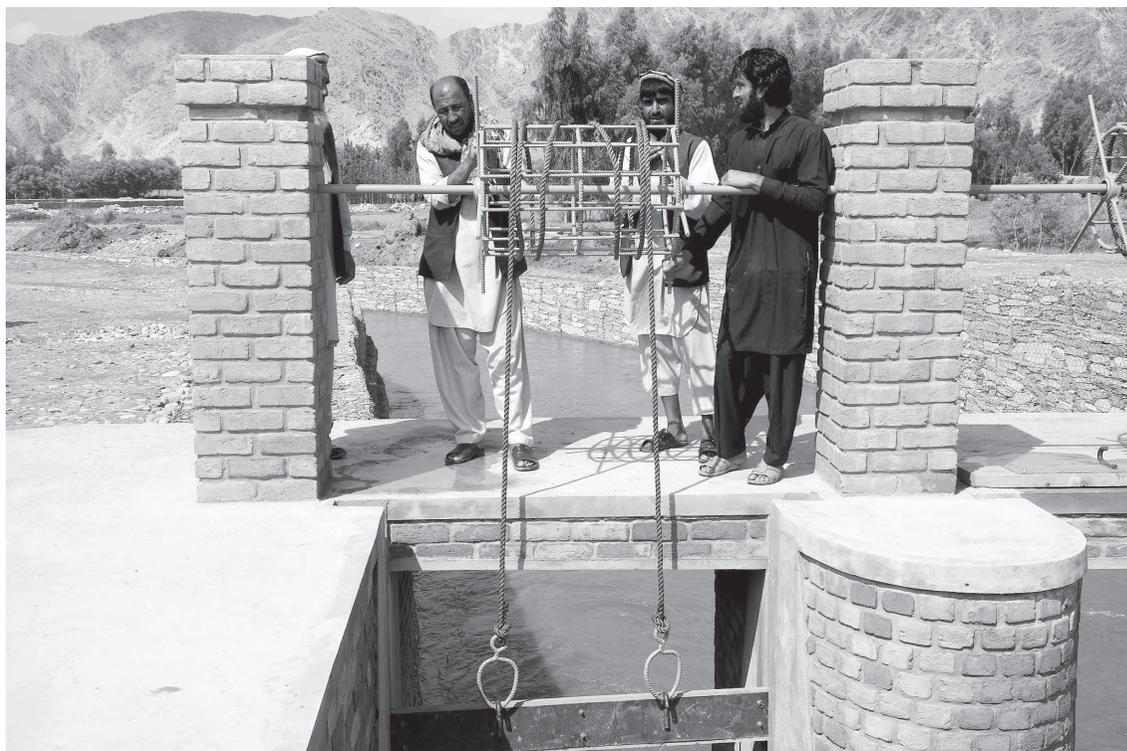
蛇籠ワークショップ。2003年、用水路建設当初は賞金つきのコンテストを行い、技術向上を図った。現在はみな熟練工だ



上のワークショップで編んだ網を、現場で石を積みながら籠にする。用水路の殆どの両壁に使用されている



ジャララバード事務所のワークショップ。堰板の上げ下ろし時に使う道具を作製中。周りに堰板に貼り付ける鉄板や、鉄板をつけ錆止めを塗って干している堰板が見える。水車もここで作った。



堰板方式取水門。堰板の上げ下ろしを指導するエンジニアのファヒーム（左）



鉄砲水の後の修復作業。約10カ所で一斉に作業を進めている
(2015年7月)

際に一定期間を現場で働きながら習得する方針です。医療と同様、灌漑の仕事は、河川など自然を相手にするので、臨機応変に対処せねばなりません。徹底した経験に基づく現場感覚が必要です。実際の事業に当たり、石積み、ダンプカーの誘導、蛇籠の編み方等の単純作業から設計や全体の管理に至るまで、経験を積み重ねば習得できません。過去、医療活動の場合も殆ど同様な方法で人員を育成しています。早ければ年度内に着手する予定です。

広域拡大は一朝一夕にできませんが、余り悠長にできぬ事情があります。農地の乾燥化で農業生産が急速に減少している現実です。飢餓人口は、アフガン全国で四百万人(二〇〇〇年・WHO)から七六〇万人(二〇一四年・WFP)へ増加しています。この数字を裏づけるように、ジャララバード周辺のスピンガル山脈方面で、農地がごとごとく荒果れてしまいました。

こういった地域では、生活の道を絶たれた農民層が、家族を養う糧を求めてIS(イスラム国)の勢力下に入り、その範囲は今やナンガラハル州の三分の二を覆うまでに至っています。干ばつ地帯と紛争地域の分布が完全に一致することは、訴える価値があります。そして、干ばつと紛争の相乗効果で犠牲が増加しています。

「緑の大地計画」は決して小さな仕事ではないものの、アフガン全土の耕地の数%に過ぎません。我々だけでは当然無理です。各方面の協力が必要と見て、アフガン政府筋はもちろん、全ての勢力に問題を訴え続けています。

しかし、報道の運命的な性格上、どうしても戦争や政治的事件ばかりに耳目が集中しやすく、背景にある気候変動による農地荒廃Ⅱ飢餓と貧困は、余り話題になりませ



洪水で大量の土砂が流入した沈砂池の浚渫作業 (2015年7月)

ん。自然の猛威が世界中でささやかれても、戦乱との密接な関係は殆ど意識されないことが多いと思います。この傾向は、改善するどころか、ますます進んでいるようで、不気味です。おそらく世界中で進む都市化で、人間が自然から遠ざかっていることと無関係でない気がしています。

危機的事態を知る者は、早くから警鐘を打ち鳴らしてきました。戦争や難民を自然との関わりから見ると、国際的に大き



今年もサトウキビを栽培している

く広がっています。しかし、どうしても目の経済繁栄に目が行きやすく、具体策が乏しいのも現状でしょう。

現地から我が国を見ると、絶望的な気分が襲われます。字面をいじる非平和的・非現実的な主張は哀しく、さすがに呆然とします。

私たちの目の前で起きている事態は、生やさしいものではありません。そして、平和と言いい、気候変化と言いい、他人事ではな

くなりつつあります。

「緑の大地計画」は決して「テロ対策」でも「平和運動」でもありませんが、人が平和に生存する確実な現実策だと考えます。

先は長い道程ですが、これまでのご協力に心から感謝し、今後変わらぬ、このフロンティアを守りたいと思います。

平成二十七年九月 記

(追記) 今夏の洪水は例年になく激しいものでした。しかも、予測できない不安定な気象が増えています。マルワリード用水路全流域が鉄砲水に襲われ、カマ郡・ベスード郡の取水設備や護岸も改修を余儀なくされました。

建設中のミラーン堰では、洪水の直後に渇水状態となり、今冬の工事に向けて調査が進められ、かなり大規模な取水堰建設が予定されています。

今秋から、同時に多数地点での工事を進めざるを得ず、相当な難局と見えています。でも、私たちには希望があります。現地PMSの実戦部隊が着実に力をつけ、突発的な緊急事態への対応が迅速かつ適切になっているからです。

何とかこの流れを維持し、さらに他地域

への展開を現実化したいと思います。いつもの祈りとご支援をお願い申し上げます。



中村 哲：九州大学医学部卒。専門

は神経内科（現地では内科・外科もこなす）。国内の病院勤務を経て、

一九八四年パキスタン・カイバル・パクトゥンクワ州（旧北西辺境州）の州都ベシャワールに赴任。ハンセン病コントロール計画を柱にした、貧困層の診療に携る。八六年からはアフガン難民のための事業を設立し、アフガン北東山岳部に三つの診療所を開設。九八年には基地病院PMSをベシャワールに建設。また病院・診療所で患者を待つだけでなく、パキスタン北部山岳地帯の診療所を拠点に巡回診療も開始した。最大時一〇カ所の診療所を運営。二〇〇〇年以降は、アフガニスタンを襲った大干ばつ対策のための水源確保（井戸掘り・カレーズの復旧。作業地千六百カ所以上）事業を実践。さらに〇二年春からアフガン東部山村での長期的復興計画「緑の大地計画」を開始。〇三年三月からは灌漑水利計画に着手し、一〇年三月全長約二五キロが開通した。ダラエヌール診療所の年間診療数約四万六千人（二〇一四年度）。

【カラー特集】 命を育む

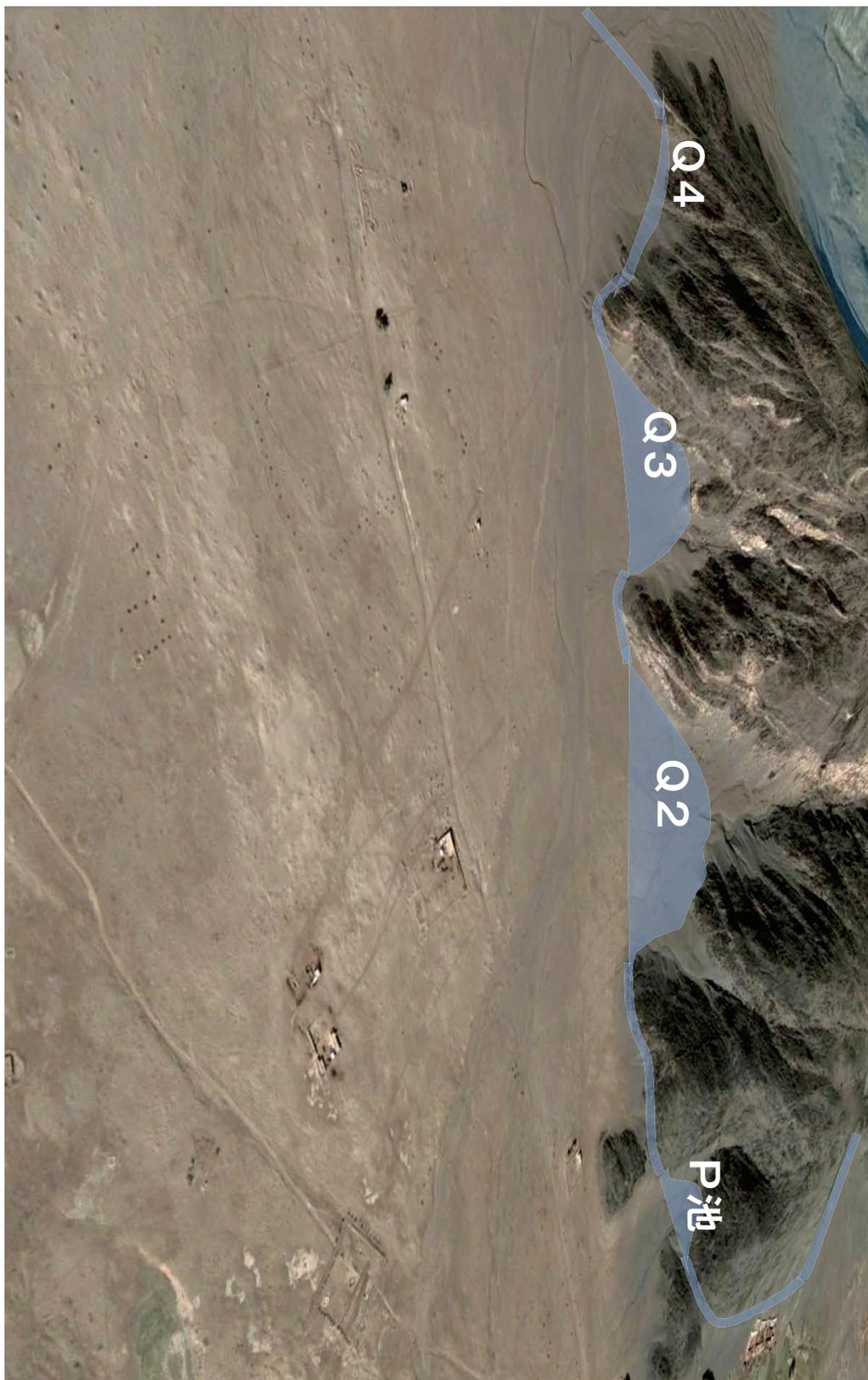


用水路には川から入ってきた魚がたくさん生息している

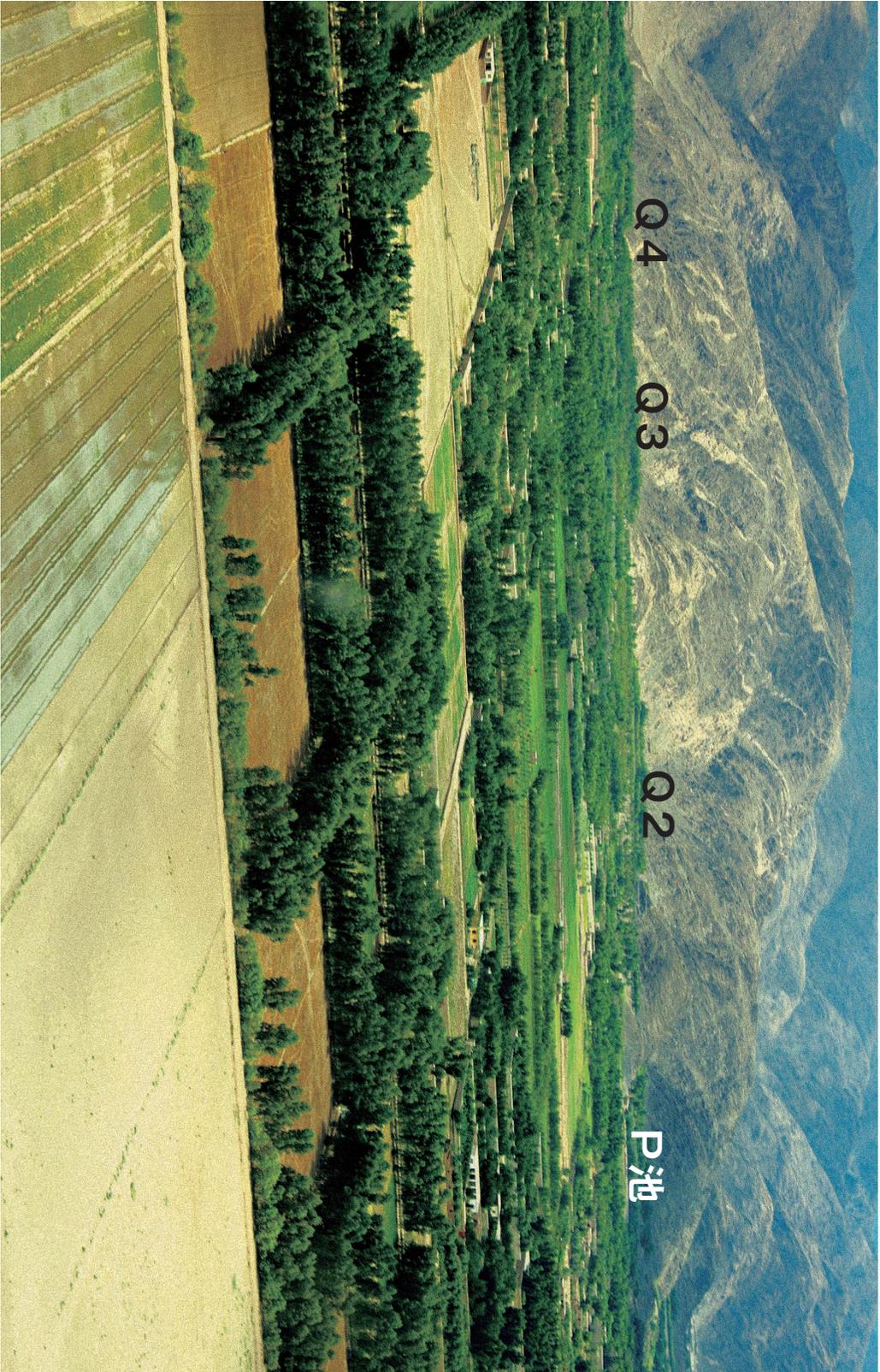


ガンベリ沙漠の作業地を移動するラクダたち。今、ガンベリは、牛や羊、ヤギの水飲み場になっている。

用水路建設前のガンベリ沙漠(2008年以前)



用水路到達6年後のガンベリ沙漠





右：2010年の大洪水によって巨礫があらわになったカシコート上流。ここからサルバンド村に洪水が流入した（2013年2月）



左：洪水流入地に柳やユーカリで樹林帯堤防を造成。外法10m、天端10m、内法10~15m（2013年3月）



右：今年は造成した樹林帯堤防によって最悪の事態は免れた（2015年7月）

◎現地スタッフからの便り

石工としてあらゆる
建設現場で一五年

PMS職員・建築職人
モハマッドカーヘル

私は、モハマッドターヘルの息子でモハマッドカーヘルと申します。ナンガラハル州ソルフロッド郡ナーラン

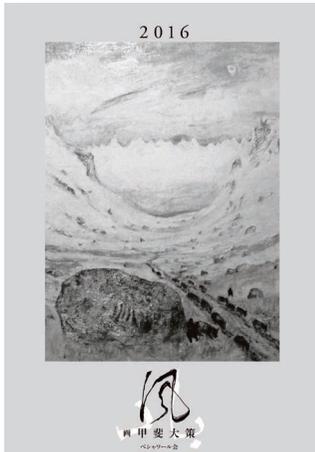
2016年カレンダー

「風」

画・甲斐大策

同封のハガキでご注文下さい

A2判変型(画・7点)
定価:1500円(税、送料込み)



今年も恒例のカレンダーを制作しました。部数に限りがありますのでお早めにご注文下さい(ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります)。
※代金は後払い。払込用紙を同封します。

ジバーク村に住んでおります。二〇〇〇年から二〇〇二年まで、石工・大工としてPMSに臨時職員として採用され、ソルフロッド、ロダット、シンワリ(アチン郡)、ドラエヌールなどPMSの各地の活動地で働きました。

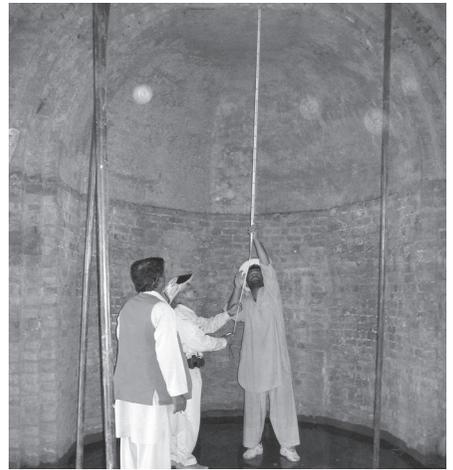
— そのあと正職員となり二〇〇五年まで、ドラエヌール郡のドラエヌールで掘削した飲料用井戸のエプロン(水たたき) 取り付け工事を行いました。その後井戸事業から

灌漑事業のマルワリード水路建設の仕事に就き、取水門や用水路に架ける小さな橋の建設、更にモスク・マドラサ建設に携わり、コンセルバッチャジャバ(湿地帯)でも小さな橋を造りました。

モスク・マドラサの建設が終わってから、診療活動を行うには手狭になってきたドラエヌール診療所の拡張工事に従事しました。更に建造物の作業は続き、診療所工事終了後はカシコト取水口、PMSガン



ガンベリ横断水路に架ける橋や分水門などの打ち合わせをする中村医師とモハマッドカーヘル



モスク建築現場で、天井の測定をする中村医師とモハマッドカーヘル（右）

ベリ農場のタワー（ガンベリ農業事務所）、カマ取水口、ベスード取水口、昨年からは始まったシギ取水口、同じくミラーン取水口と、PMSの殆どの作業場で石工として働いて来ました。

そして、今、ガンベリでモスクの建設に忙しくしております。

以上のように仕事は連続して忙しい日々ですが、私はたいへん幸せです。

私をサポートしてくれるアフガン人や日人スタッフと働けることに、特にドクターサーブ・ナカムラとドクターサーブ・ジアウルラフマンには深く感謝しています。ありがとうございます。

二〇一五年九月七日

モハマッドカーヘル

日本人と共に 二〇年間誠実に

PMS職員
ヌールモハマッド

私は、アフガニスタン・ロガール州ザヒラバード村在住ハッジダウードモハマッドの息子のヌールモハマッドです。一九九四年にPMSに参加後、看護部や事務所ワーカーなど様々な職に就いてきました。PMSがアフガニスタンの貧しい人々を助けるために行なってきた様々な活動について説明します。

私がこの組織に参加した当時は、パキスタンのベシャワールで、ジャパン・アフガン・メディカルサービス（JAMS）とベシャワール・ミッション病院から独立したばかりのPLS（ベシャワール会レプロシサービス）の二つの医療施設を持ち、貧しいアフガン難民の診療とハンセン病の診療をしていました。

また、アフガニスタン・ヌーリスタン州のダラエワマとクナール州ダラエピーチにもJAMSの診療所がありました。このJ



ガンベリに建築中のモスク（2015年7月）

AMSですが、一九九八年にハンセン病患者治療をするPLSと統合し、名称をベシャワール会医療サービス（PMS）と改名してアフガン人、パキスタン人患者の診療にあたりました。

二〇〇〇年、アフガニスタンでは人々が



2010年2月のセレモニーで現地州知事や日本からの理事の対応に忙しかったヌール モハマッド（左端）

飲み水に困ってしまつたので、PMSは飲料水と灌漑用水を提供する水事業をナンガ

ラハル州のダラエヌール、ソルフロッド、ロダット、ベスード、アチン、チャプラハ

石賣りウマル

甲斐大策

サファル・バヘル！（良い旅を）

23

この日ウマルは、大叔父、長男の三人でコクチャ川河畔の月曜日⁽¹⁾に賣石の原石を並べた。商うつもりはない。北部移動民のあてやかなカラワン（キヤラヴァン）を期待していた。峰を越える馬達を見やる端整な顔に伸びた鬚をかすめ、風に揺れた褐色の薄片が足元に落ちた。幽かに動いている。……時季遅れのシャウバラ⁽²⁾、この繭、集めなくなったなあ……、長男の肩越しに大叔父が呟いていた。

先祖は十八世紀末中央アジアからバダフシャンへと移住した、賣石を扱うファルスィ⁽³⁾の名家である。家長は代々ルバリー⁽⁴⁾を詩作、靈的な能力で石の心を読み美を洞察、表に顕れない力を確信した時のみ取引してきた。

五千年以上ラジュワールド⁽⁵⁾を産してきたジュルムの礦山は、先ずはドイツへ向う至高の青藍色を見極める時、一家の眼を、取引の要としてきた。アフガニスタンへの外国軍侵入時も内乱の日々にもその流通路は絶えなかった。時流に揺れず阿らず山深いバラクの里で、賣石と詩作に生きる一家は、ウマルを濁りの無い水晶のように育てたのだ。そんな山の貴公子も二十年前カールで数年を過した。貧困、飢餓、差別の都は、民族・部族の確執が絡む政争に塗れ、神を讀んでの殺戮が横行していた。帰郷直後のウマルは、長い睫を伏せ旧友に語った。「カールは私に、スニーカーとジーンズ、携帯を教えてくれた。」

ウマルは、美しい石と運命だったかのように出会う一瞬の欣びの為に山歩きを欠かさない。それは一家の生活でもある。この年は稀少なアフガナイトの原石を手に入れた。一家は、ラジュワールドの仕事や山歩きから冬籠りに入る。大叔父の指導でウマルの詩作も進む筈である。数日間の秋を前ぶれに、パミールから冬が急ぎ足で下りてくる。

(1)夜翔のモノからここでは蠶蛾

(2)言語・人種共にベルシヤ、ここではベルシヤ（アラン）人の意。

(3)四行詩

(4)青藍色、ラピスラズリは青い石を指すラテン語。

ルなどの各地で開始しました。これらの地域の住民は大変に喜び、日本の人々に感謝をしています。

井戸事業の途中で（二〇〇一年一〇月）ペシャワールでのアフガン難民、他の診療に加え、ダラエヌール診療所やカーブルやナンガラハルでの食糧配給も行い、約一五万人もの人々に食糧を配りました。

その食糧配給の後カマ、ベスード、カシ



ヌールモハマッド。ペシャワール基地病院で購買担当をしていた経験がかわれ、ジャララバード事務所から現場へ燃料を届ける担当を任されている。

コート、シェイワなどの地で取水口を建設し、灌漑事業を実施しました。特にマルワリード用水路は全長二四・五km（最終的に約二七km）、幅が四・五〜六mあり、約三千畝の土地を灌漑しています。また近年は農業事業も行なって砂地に作物を植え、現在では沢山の土地が耕地に変わっています。

井戸掘削から始まり ガンベリ農場で働く

PMS職員・農業担当
アルサラカーン

私は、ナンガラハル州ダラエヌール郡ダラエヌール村在住ヤールモハマッドの息子のアルサラです。

二〇〇三年、PMSのアチン地域での井戸掘削プロジェクトで働き始めました。

アチン地域の後、しばらく用水路建設の作業を（注・一時ダイナマイトで岩盤の爆破作業を担当）しましたが、PMS事務所からの任命を受けダラエヌール地域での井戸掘削作業に従事しました。

その二カ月後、用水路での蛇籠作りを担

地元の人々はPMSに感謝し、日本の誠実な人々、特にPMS総院長の中村先生に感謝をしています。活動三〇周年を経たPMSスタッフの皆さん、特に中村先生にお祝いを申し上げます。
感謝をこめて



ガンベリ農場で麦の脱穀中のアルサラカーン（左から2人目）

当し蛇籠に石を積む作業をしました。

用水路がガンベリ沙漠に到達した後は、

医者、用水路を拓く

アフガンの大地から世界の虚構に挑む
中村哲 用水路建設事業の7年をつづつた感動の記録 【5刷】1800円

辺境で診る辺境から見る 【5刷】1800円

医者 井戸を掘る 【12刷】1800円

医は国境を越えて 【7刷】2000円

ダラエ・ヌールへの道 【5刷】2000円

ペシャワールにて 【8刷】1800円

アフガン農業支援奮闘記
高橋修・編著 2500円

聖愚者の物語

甲斐大策 1800円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
電話092(714)4838

人は愛するに足り、 真心は信ずるに足る

アフガンとの約束 2000円
中村哲／澤地久枝(聞き手)
岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
電話03(5210)4000

天、共に在り

アフガニスタン三十年の闘い
中村哲 1600円
NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
電話03(3464)7311

価格はすべて本体価格(税別)です

沙漠の開墾を始めPMSのガンベリ試験農



PMSガンベリ農場で田植えの準備(代掻き)

場を造成する仕事に就きました。

ガンベリ農場は開墾順にA区画、B区画、C区画、D区画……と続いていきます。様々な場所で柳やオリブやユーカリを植え、ここに育苗場を作り自分で植樹用の苗造りをするまでになりました。

他にも様々な樹木の植樹や堆肥作り、そして果樹栽培も始め、マルチ(ミカンの一種)やレモンなどのオレンジ果樹園、養蜂を期待しピエラ農園も開墾地に作っています。

現在私は、地域の作業員たちと、ガンベリ農場のC、D区画でサトウキビ栽培、B区画で稲の栽培、更にカシコト用水路で柳を植える仕事を担当しています。

アフガン人や日本人スタッフの皆さん、特にドクターサーブ・ナカムラとドクターサーブ・ジアウルラフマンには、私をこの

仕事に就かせて頂いたことに深く感謝しています。

有難うございます。

二〇一五年九月七日

アルサラ

▼寄付をしてくださる皆さまへ▼

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承頂きますよう、お願いいたします。

▼事務局移転のお知らせ▼

*五月に移転しました。
新住所：〒八〇〇〇三三 福岡市中央区警固一―一七 ハイツみかげ八〇三号
(電話・FAXは変わりません)

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りいただければ幸いです。会報発送等に使用させていただきます。なお、外国の切手は取り扱っておりません。

▼現地活動を紹介するパンフレットをお送りします▼

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお使いいただけるものです(払込用紙がついています)。ご希望の方は遠慮なく事務局にお申し越し下さい。パンフレットはA3変形を四折したもので、長形の定形封筒に入る11・4×22・5cmサイズ、カラー版です。

●事務局長便り

*九月初旬、北関東と東北で発生した大雨による大洪水は、自然の底知れぬ力に恐怖をもたらしました。鬼怒川の堤防決壊による水害は、治水技術の発達した日本に於いても、河川が人間の智力だけでは、制御し得ぬことを再認識させました。近年、地震や火山の噴火を始め次々と自然災害が発生して、否応無しに、へむきだしの自然)に向き合わざるを得なくなっています。被害に遭われた方々の復旧への道のりを考えると、胸塞がる思いですが、一日でも早く穏やかな日常が戻ることをお祈りいたします。私たちも、自然への畏怖を胸に刻みつつ、災害への備えをもって生きてゆかねばと思います。

*安保関連法案が国会で可決成立されようとしています。安全保障問題は、「国際関係」を軍事的な力関係によるパワーゲームとしてとらえるかどうかにかかっていると思います。つまり軍備増強と軍事同盟を相手国への抑止力と考える陣営同士が「軍拡(抑止力)のジレンマ」に陥るといふ呪縛です。無謀で悲惨な戦争を経験した日本国民は「憲法第九条」によって、そのジレンマから理念的に自由であろうとしたのではないのでしょうか。それは、理念としてだけでなく現実として私たちのアフガニスタンでの事業が示してきました。今一度、九条を虚心に読んでみるべきかと思えます。

〈第九条〉日本国民は、正義と秩序を基調とす

る国際平和を誠実に希求し国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

さらに、憲法を尊重し擁護する義務を負うのは、次の者と定められています。

〈第九十九条〉天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

※これまで「事務局便り」は福元事務局長が書いてきました。今号より「事務局長便り」と致します。

◎村から

歴史社会学者の小熊英二さんが父親・謙二さんの波乱にみちた人生を聞き出した『生きて帰ってきた男』(岩波新書)を読みました。昭和一九年一月に召集された謙二さんは、二等兵として満洲で終戦を迎えますが、シベリアに連行され、三年余り過酷な労働を強いられました。

帰国後も、山あり谷あり……。今年八九歳の謙二さんはお元気で、ベシャワール会にも寄付されているという記述があり、嬉しく思うと同時に、一枚の払込み用紙にも人生がこめられていることを実感しました。信頼されているNGOの事務局で、ささやかながらお手伝いできる幸運に感謝しています。(S・S)

会 則

①本会の名称をベシャワール会とする。
②本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な情宣・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。

④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。

⑨本会の事務局をFARAHOUSE(〒八一〇〇〇二三 福岡市中央区警固二一―一七 ハイツみかげ八〇三号 Ⅱ〇九二―七三―二三七二)内におく。

総会、現地報告会は、原則として毎年六月第一土曜日に開催いたします。